

第2期妹背牛町まち・ひと・しごと創生総合戦略(令和3年度~7年度)

妹背牛町企画振興課企画振興グループ

1 妹背牛町の概要

妹背牛町は、北海道の中央西部に位置し、道央自動車道と直結する深川西ICが近くにあるため、車で札幌まで約1時間、旭川市までは約30分の距離です。空知地方の北部・北空知の自治体の一つで、近隣市には深川市や滝川市があります。

総面積48.64km²と北海道では3番目に小さな山のないまち。その約7割が農用地となっており、北海道の母なる川「石狩川」の恩恵を受け、おいしいお米をつくるのに適した肥沃な大地が広がる、道内有数の穀倉地帯です。JR妹背牛駅は、昭和59年に無人駅となりましたが、北海道の中心路線である「函館本線」にあり、道内の主要都市や空港への交通アクセスも良好です。



妹背牛駅 駅名標

2 「妹背牛町・まち・ひと・しごと創生総合戦略」策定の背景と趣旨

本町は、「まち・ひと・しごと創生法」(平成26年法律第136号)第10条第1項に基づき、人口の現状分析や将来人口推計などを基に、今後の目指すべき方向性を示した「妹背牛町人口ビジョン」を作成しました。

これを踏まえ、「妹背牛町まち・ひと・しごと創生総合戦略」(以下、「第1期総合戦略」)を平成27年度に策定し、各種施策を展開してきました。その後、第2期総合戦略の策定と第9次妹背牛町総合振興計画(以下、「総合計画」)の策定が同時期であったことから、総合計画の内容を反映させるため、第1期総合戦略を1年延長し、令和3年度から令和7年度までの5年間で第2期総合戦略を策定しました。

3 総合計画と総合戦略の関係性

令和11年度までの10年間で策定する総合計画は、本町の持続的な発展のために、町民、地域、行政が一体となったまちづくりの方向性を示しています。

具体的には、まちづくりのテーマである将来像を示す基本構想、実現に向けた施策の計画、これらを踏まえた町政の施策・事業を示す実施計画で構成されています。

まちづくりの最上位に位置付けられる計画であるため、個別の計画立案や事業内容の選択などは、総合計画に基づいて決定されます。

一方、総合戦略は人口減少問題や地方創生に対応するため、雇用や移住・定住、子育てなどに関する具体的な施策を定める計画であることから、総合計画を基に重点的に取り組むべき施策を示すものです。

4 SDGsを踏まえた総合戦略の4つの基本目標

第2期総合戦略では、国や道の追加・修正内容を勘案するとともに、第9次妹背牛町総合振興計画を反映しつつ、見直しを行いました。

国では、SDGs（エス・ディ・ジーズ）を原動力とした地方創生を新たな戦略方向と示しており、本町においてもSDGsの理念を踏まえ、町の実情に応じた持続可能な社会づくりを推進しています。

第2期総合戦略では、各施策をSDGsの17項目の目標に結びつけるほか、2050年脱炭素社会の実現に向け、本町の地域特性に応じた再生可能エネルギーの導入に取り組み、持続可能な地域づくりにつなげていきます。

基本目標1 妹背牛町における安定した雇用を創出する

基幹産業の農業分野では、所得向上や人材確保、事業継承を円滑に進めるため、複数の農家による組織型法人や複合農業経営を推進していきます。さらに、安全・安心で良質な農産物を安定的に生産・提供できる生産性や品質向上、環境負荷軽減に向けた技術の開発と普及を行うとともに、低コスト生産を目指した大区画圃場^{ほじょう}や水田の汎用化、土地改良施設の計画的整備、排水改良、水利施設の機能向上など農業生産基盤の整備を進めます。また、担い手不足を補うために、省力化の取り組みとして水稻直播栽培の作付け拡大など水田農業の体質強化を行います。

商業分野では、急激な人口減少などによる購買力の低下と近郊大型店の進出、インターネットショッピングの普及により、空き店舗が増えていることから、住宅等整備事業や商店街活性化地域支援事業など商工会が実施している施策・事業への支援を行うとともに、町内で新規起業（創業）する方へ物件購入（賃貸）や改修費、設備投資などに対する支援の充実を図っていきます。

また、工業分野では近年増加している外国人技能実習生等の日本語教育や生活支援のサポート体制の強化を図っていきます。

基本目標2 妹背牛町への新しいひとの流れをつくる

町民の利用だけでなく、町外者の利用も期待できるカーリングホール・遊水公園うらら、妹背牛温泉ペベルなど既存施設・設備の修繕を行い、一体的な観光施設づくりを進めます。マスメディアなどを活用しながら、地域の魅力を発信し、観光や移住へとつながる取り組みを展開します。

特に妹背牛温泉ペベルについては、本町の観光拠点として約30年間、町内外から多くの方々にご利用されていることから、約1年間の大規模改修を経て令和6年4月のリニューアルオープンを契機に交流人口の増加を目指します。

また、他地域のイベントへ積極的に参加することにより、特産品の物販販売を通し、観光施設や移住施策のPRに努め、空知・北空知管内の市町と連携することで広域観光を視野に入れた取り組みを展開します。



遊水公園うらら

基本目標3 結婚・出産・子育ての希望をかなえる

本町は若年層の流出が多く、子育て世代が少ないことから少子化が急速に進んでいる状況であります。当町で結婚し、安心して子育てできるように、子育て世代の意見・要望が反映されにくい環境を改善するため、若い子育て世代に直接アプローチを行い、様々な助成制度の見直しや子育てする環境の改善を図っていきます。

また、子どもの特性に応じたきめ細かな学習環境を整備し、確かな学力の向上と望ましい生活習慣を形成するとともに、ICT（情報通信）機器を児童生徒ひとりに1台ずつ導入します。さらに、近年のグローバル化により、外国籍の住民が増えている状況から、その方々と交流を図るなど、多文化を学ぶ特色ある授業の展開を行っていきます。



多文化を学ぶ小学校授業風景

基本目標4 ひとが集う、安心して暮らすことができるまちをつくる

地域住民が安心して暮らせるため、分散型の地域再生エネルギーシステムを構築し、公共施設などに電力供給できる施設を整備するとともに、災害時でも避難所などに電力供給が行える地域防災力を向上させます。また、防災備蓄品の期限管理などを徹底し、災害時に安心できる避難環境を整備し、防災行政無線の整備に取り組み、各家庭に戸別受信機の配置を行います。

感染症や生活習慣病、がんなどの予防や早期発見の体制、生活支援体制整備への取り組みを通じた住宅福祉サービスや高齢者福祉の充実を図るとともに、地域の生活基盤である道路や橋りょう、街灯などを維持し、生活の足となる公共交通機関の確保対策に取り組んでいきます。

5 妹背牛町の活動事例「子育て世代交流施設 from ☆Moko」

○ 移住した親子の願いが叶った施設

子育て世代交流施設「from☆Moko」（フロム・モコ）は、2021年12月にオープンしました。屋内外に遊具をそろえ、子どもたちが楽しく遊んでいるすぐそばで、お母さんたちが何気ない世間話を楽しんでおり、町内の親子が季節を問わず気軽に集まれる交流拠点です。

施設名は、町民公募で決定。「妹背牛の子ども」の頭文字を使い、「ここから」（フロム）大きく育ててほしいとの思いが込められています。

モコを利用する親子の9割以上が町外からの移住者です。子育て世帯の要望を取り入れた施設は町民主体で運営されており、利用者同士のつながりを生む施設として、暮らし続けたいまちづくりへの一役を担っています。

コンセプトの一つが「体を使った遊び」。屋内には中2階の吹き抜け部分に張り巡らせたハンモックネットやカラフルなライト付きのトンネル、屋外にはブランコや砂場などが設置され、親子の要望やアイデアが随所に採用されています。

空き家を再利用した施設の改修では、利用する親子に愛着を持ってもらおうと、内壁に漆喰を塗るワークショップを開催しました。



屋内にあるハンモックネット



カラフルなライト付きのトンネル



野外での砂場遊び



内壁に漆喰を塗るワークショップ



ミニ夏祭り

○ モコの活動と効果

モコの開所日には、親子が自由に集まって遊具で遊んだり、育児の悩みを相談し合ったりしています。クリスマスや夏祭りなどの季節行事をはじめ、「骨盤教室」や「マタニティのつどい」など、子育て世代に役立つイベントも開催しています。

子育て経験のある女性スタッフが自身の経験を生かしながら運営に当たっています。多彩な趣味を持つスタッフもおり、子どもたちの感性を育む仕事を教えたり、手作りのお菓子を振る舞ったりして、利用者とスタッフとの交流も積極的に行われています。

町の課題であった空き家対策として、古民家を再生することで、新築と比べて工事費用を4割削減。モコを整備後は空き家への関心が高まり、町が実施している中古住宅購入支援事業の活用が増加傾向です。

子育て世代の移住も増えており、モコの整備をきっかけに関係人口の増加にも期待されます。

○ 今後の展望

モコは、地域に開かれた施設を目指しています。現在は町内の子育て世帯の利用が中心ですが、より多くの方が利用できる準備を進めています。

本年度からモコのイベントに町外の親子も参加するようになったほか、小・中学生にも活用してもらえる場所となるよう、計画を立てています。

「高齢者を講師に迎えた昔遊びのイベントを開催」「定年後で時間に余裕のある方に勉強を教えてもらいたい」など、3世代の交流を望む声もあり、子育て世帯以外の利用も検討しています。

一般町民も参加できるようなイベントを企画し、幅広い世代のつながりを広げることで、町全体で子育てを支える仕組みづくりに向けて取り組んでいきます。